

だだこね



2歳を過ぎた頃からの子どもの大きな特徴として、だだこねがあります。お話することがだいぶ上達してはいるのですが、自分の思いを相手に十分に伝えるにはまだまだ力不足な為の自己表現と考えてみましょう。

思い通りにならないとひっくり返って手足をバタバタさせて大泣き、大人が手を貸してもかんしゃくは治まらない。自分で自分のことをどうしたらいいのかわからない混乱状態。大人もどうしたらいいのかわからなくなって、子どもに負けずと大声で怒鳴ったり、物でなだめたり、無視したり、いろいろと試してみますよね。

対応としては、**爆発させているその時に十分爆発させてやる**ことが大切です。無理にだだこねを早く止めさせようとしたり、物で機嫌を取ったりする必要はありません。子どもにとっては**泣きたいだけ泣くことが必要**なのです。大人は無視するのではなく、**見守りながら**待っていてあげましょう。

そして、**泣き止んだ時、自分で機嫌を直した時、しっかりと抱きしめて**ください。自分で泣き止んだことを「えらいね」とほめてあげてください。これが自分で自分の気持ちを立て直す大切な力になるのです。

子育て応援カード8

鶴岡市子育て支援推進委員会

